



株主の皆様へ

[第43期 中間決算報告]

平成19年4月1日～平成19年9月30日



大成ラミック株式会社

証券コード 4994

Profile

当社は、液体・粘体包装フィルムと高速自動充填機の両方を手がける唯一のメーカーです。

食品業界をはじめスーパーマーケット、コンビニエンスストア等

さまざまな業種の

包装ニーズに的確に 대응して

液体・粘体包装のパイオニアとして業績を伸ばしてきました。

経営資源を高付加価値製品に

集中・特化させ、独自のシステムを

構築することにより、

トップブランドとしての

地位を築いています。



代表取締役社長 木村 義成

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼を申し上げます。

この度、第43期中間決算報告をお届けするにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

当中間期の業績

当中間会計期間におけるわが国経済は、景気の拡大傾向が続いたものの、国際的な金融市場の不安要因や、高値圏を推移する原油価格の動向など、今後も予断を許さない状況であります。

当軟包装資材業界におきましては、原油高騰による影響より原材料価格の値上げがさらに進み、一部の小売商品

価格では値上げの動きが見受けられるなか、包装資材における価格転嫁は進まず、利益確保がますます難しい業況となっております。

このような状況下において、当社は、包装フィルムと充填機械を提供するビジネスモデルをより強化し、非食品部門や新規顧客への積極的な営業活動と同時に、製造部門における生産性および労務効率の向上を図り、徹底したコストダウンによる利益の確保に努めました。

その結果、売上高は82億21百万円（前年同期比7.9%増）、営業利益は7億80百万円（同7.5%増）、経常利益は7億92百万円（同7.9%増）、中間純利益は4億40百万円（同4.3%増）となり前年同期に比べ増収増益となりました。

通期の見通し

包装フィルム部門につきましては、多様化する顧客のニーズに迅速かつ的確に対応することが重要であり、販売シェアの拡大、新規顧客の開拓、営業の深耕に努めるとともに、コストリーダーやトイレタリーなどの非食品分野の更なる拡販を積極的に推し進めてまいります。また、本社工場の生産設備増設による更なる生産力や品質管理体制の強化を図り、原材料価格の動向や環

表紙の絵

洋画家八十山和代（やそやまかずよ）氏は、故郷石川県と京都にアトリエを構え、洋画では珍しく竹をモチーフとした作品を描き続けています。東京、京都、ニューヨーク、中国、ブラジルなどで次々と個展を開催。サロン・ド・パリ正会員、竹文化振興協会会員など幅広く活躍中です。



境問題への対応など、いかなる経営環境の変化にも迅速かつ効果的に対応できる経営体制の確立と、企業価値の向上に努めてまいります。

包装機械部門につきましては、包装フィルムと充填機械を同時に供給する事業展開をより強固にし、開発から製造、販売、保守メンテナンスまでの全ての業務を自社で行い、お客様に対してより一層充実した「技術」「品質」「サービス」の充実を図るとともに、機械

メーカーとして顧客のニーズに応じた積極的な営業を目指してまいります。

また、種々の包装技術やラミネート技術に関連した機械や包装システムなど、将来の事業基盤強化に向けた研究開発を行ってまいります。

通期の業績見通しにつきましては、売上高157億51百万円（前年同期比6.6%増）、経常利益13億50百万円（同5.6%増）、当期純利益8億17百万円（同9.7%増）を見込んでおります。

株主の皆さまにおかれましては、なお一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年12月

代表取締役社長

木村 義成

包装フィルム部門

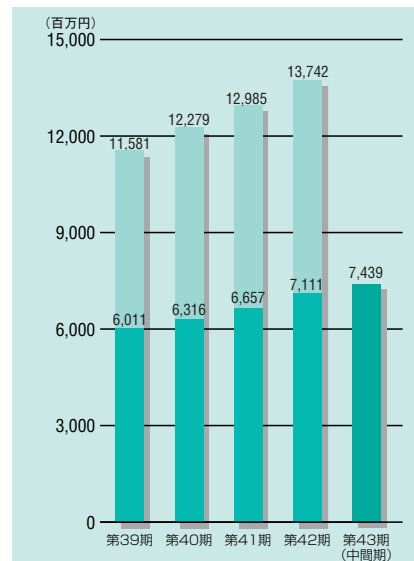
■ 事業内容

主に即席麺やお持ち帰り弁当などに別添調味料として付いてくる液体スープ、醤油、ソース、納豆のたれ、わさび、からし、ドレッシングなどを入れるラミネートフィルムやレトルト食品用パウチ、トイレタリー、コスメタリー関連製品の詰替用パックなどの開発・製造・販売を行っております。

包装フィルム部門につきましては、上半期を通して良好な天候が続いたなか、充填機械の好調な展開の影響も大きく、順調に受注活動を進め、当社の強みである高品質・短納期・安定供給を主体とした販売を展開するとともに、生産効率の向上に全力で取り組み、利益確保に努めました。

その結果、包装フィルム部門の売上高は74億39百万円（前年同期比4.6%増）となりました。

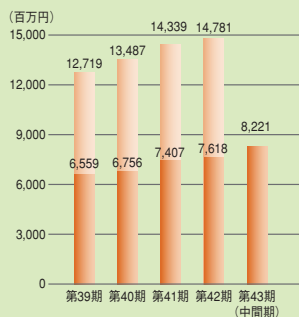
■ 包装フィルム部門売上高推移



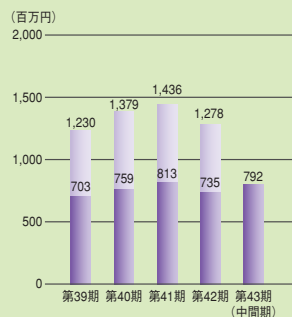
■ 中間期 ■ 通期

Financial Highlights 業績ハイライト

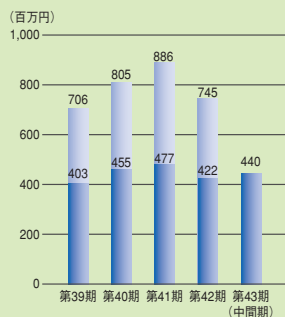
■ 売上高 (■ 中間期 ■ 通期)



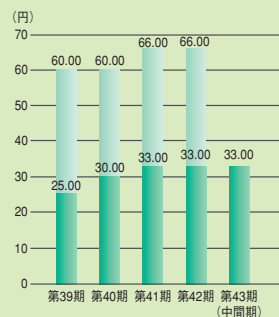
■ 経常利益 (■ 中間期 ■ 通期)



■ 中間(当期)純利益 (■ 中間期 ■ 通期)



■ 1株当たり配当金 (■ 中間期 ■ 通期)



包装機械部門

■ 事業内容

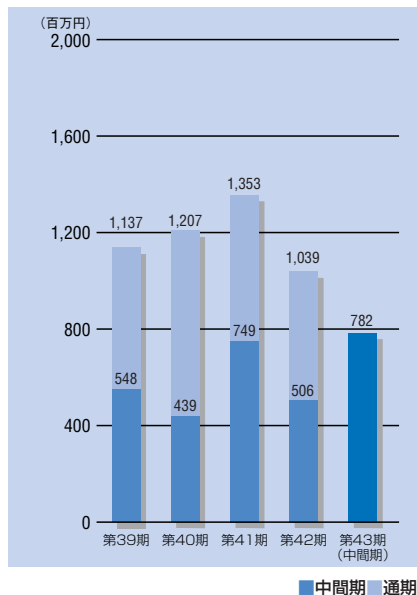
高速液体自動充填機を液体・粘体自動充填用フィルムとともに食品メーカー等向けに販売を行っております。充填速度の高速化と安定化を重視した自動充填機はDANGANシリーズとして「納豆タレやからし等の少量パック専用の5分割機」「ストレートつゆや業務用パック等の大容量専用機」等の開発・販売を行っております。

高速自動充填機「DANGAN」につきましては、前期後半からの活発な商談のもと、大手食品メーカーや既存顧客のリピート需要を中心に、新規顧客へ大型設備の受注にも成功し、前年同期を大幅に上回る売上げで推移しました。

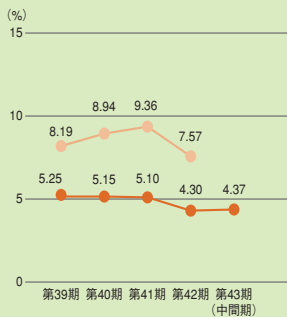
また、海外からの引き合いにより受注および輸出販売が成約し、今後は海外進出を視野に入れた展開を進めてまいります。

その結果、包装機械部門の売上高は7億82百万円（前年同期比54.5%増）となりました。

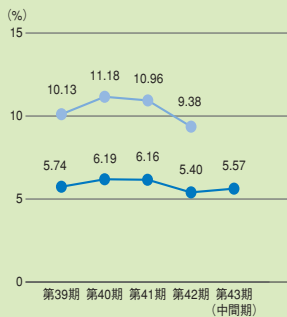
■ 包装機械部門売上高推移



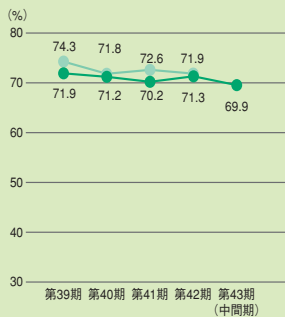
■ 自己資本当期純利益率 (■ 中間期 ■ 通期)



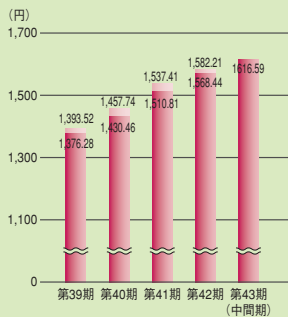
■ 総資産経常利益率 (■ 中間期 ■ 通期)



■ 自己資本比率 (■ 中間期 ■ 通期)



■ 1株当たり純資産 (■ 中間期 ■ 通期)



暮らしの様々なシーンに定着。さらに活躍の場を

食品や調味料用包装フィルム、
洗剤などのパッケージなど、
日常生活の様々な場面で使用される
液体・粘体用包装フィルム。
種々の素材から生まれる
包装資材のなかで、
プラスチックから作られる
ラミネートフィルムが
大成ラミックの製品です。



活用範囲を広げる ラミネートフィルム

「ラミネート」は、「積層（薄く重ね合わせること）」を意味します。2種類以上の性質の異なったフィルムを貼り合わせて作るラミネートフィルムは、使用する素材の性質により、様々な機能を持たせることが可能となります。

例えば、当社が提供している食品を主とした各種調

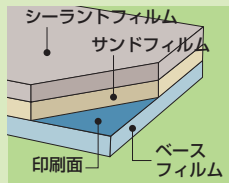
味料などの液体・粘体用小袋や洗剤などのパッケージにおいても、様々な機能性素材をラミネート加工することにより、液漏れを解消する密封性をはじめ、耐久性・耐衝撃性・耐熱性などの付加価値を向上させています。

最近では、液晶テレビ、携帯電話の薄型ディスプレイにも、視野角や輝度を向上させるために特殊な光学フィルムが用いられるなど、ラミネート技術はその活用範囲を拡大し続けています。

拡げるラミネートフィルム製品

信頼性を誇る 当社ラミネート技術力

包装用ラミネートフィルムは、表面に印刷に適したベースフィルム、中間に充填物を酸化や紫外線から保護する機能をもったサンドフィルム、内側にフィルムを袋状に熱融着させるヒートシート材のシーラントフィルムで構成され、その製造方式としては、フィルムを接着剤で貼り合わせるドライラミネートと、押し出しラミネートを採用しています。当社は、独自の技術を駆使して特殊なシーラント樹脂を押し出し加工した複合フィルム「tif (大成ロジカルフィルム)」を開発するなど、フィルムを薄くする高度な技術でプラスチックの使用量を大きく抑え、同時に多種の付加価値を生み出し、食の安全や食品の流通の改善を実現しています。



押し出しラミネート機



ドライラミネート機

ラミネートフィルムの 可能性を追求

当社では、このラミネート技術を活用して、新たな視野でラミネートフィルム製品の開発を進めています。例えば「ラミネートタグ」は、世界最小クラスの無線自動認識ICチップをラミネート加工し、耐水性、耐強度性なども確保するICタグであり、ユーザーの利便性を最大限に向上させています。



ICチップ



ラミネートタグ

ソフトとハードの両面から お客様をサポート

当社では、このようなラミネート先端技術の開発だけでなく、高速自動充填機など設備面での技術提供や各種メンテナンスにより、お客様の充填環境に対して迅速かつ的確なソリューションを提供することを通して、お客様の生産性向上に大きく貢献しています。ハード（充填機）とソフト（フィルム）の両面からお客様の液体充填環境のすべてをサポートする技術力を背景に、1万アイテムのフィルム製品を、大手即席麺のメーカーから地域の食品メーカーまで600社以上のお客様に提供し、確実な信頼をいただいております。

貸借対照表 (要約)

(単位:百万円)

科目	第43期中間期 平成19年9月30日現在	第42期中間期 平成18年9月30日現在	第42期 平成19年3月31日現在
●資産の部			
流動資産	9,449	8,790	8,713
固定資産	5,122	5,061	5,161
有形固定資産	4,501	4,366	4,534
無形固定資産	200	115	209
投資その他の資産	420	580	417
資産合計	14,572	13,852	13,874
●負債の部			
流動負債	4,225	3,777	3,729
固定負債	162	193	176
負債合計	4,387	3,970	3,906
●純資産の部			
株主資本	10,152	9,804	9,919
資本金	2,408	2,408	2,408
資本剰余金	2,896	2,896	2,896
利益剰余金	4,847	4,499	4,614
自己株式	△0	△0	△0
評価・換算差額等	32	76	48
純資産合計	10,184	9,881	9,967
負債及び純資産合計	14,572	13,852	13,874

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

ここがポイント!

流動資産

流動資産は前期末に比べ736百万円増加いたしました。これは、主に売掛債権の増加によるものです。

損益計算書 (要約)

(単位:百万円)

科目	第43期中間期 平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで	第42期中間期 平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	第42期 平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで
売上高	8,221	7,618	14,781
売上原価	6,231	5,787	11,357
売上総利益	1,990	1,830	3,423
販売費及び一般管理費	1,209	1,105	2,165
営業利益	780	725	1,258
営業外収益	15	12	30
営業外費用	2	3	10
経常利益	792	735	1,278
特別利益	0	2	50
特別損失	28	6	18
税引前中間(当期)純利益	764	731	1,310
法人税、住民税及び事業税	323	326	579
法人税等調整額	0	△17	△14
中間(当期)純利益	440	422	745

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

ここがポイント!

売上原価

売上原価率は0.2%改善いたしました。主な要因は機械部門好調による利益改善にて、原材料値上げの影響を吸収したものです。

中間キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	第43期中間期	第42期中間期	第42期
	平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで	平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	459	△126	628
投資活動によるキャッシュ・フロー	△586	△268	△469
財務活動によるキャッシュ・フロー	△207	△207	△415
現金及び現金同等物の増加額(減少額)△	△334	△602	△256
現金及び現金同等物の期首残高	1,604	1,860	1,860
現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高	1,269	1,258	1,604

注:記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

ここがポイント!

営業活動によるキャッシュ・フロー

当中間会計期間における営業活動の結果得られた資金は4億59百万円(前年同期は1億26百万円の支出)となりました。これは主に、売上債権の増加額7億65百万円、法人税等の支払額2億71百万円、たな卸資産の増加額1億17百万円等があったものの、税引前中間純利益が7億64百万円、仕入債務の増加額4億94百万円、減価償却費3億30百万円等によるものです。

ここがポイント!

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は5億86百万円(同118.3%増)となりました。これは主に、本社新工場環境対応設備・生産設備等の有形固定資産の取得による支出3億78百万円、定期預金の預入れによる支出20億10百万円等があったことや、定期預金の払戻による収入18億12百万円等によるものです。

ここがポイント!

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は2億7百万円(同0.1%増)となりました。これは、資金使途として配当金の支払額2億7百万円によるものです。

中間株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

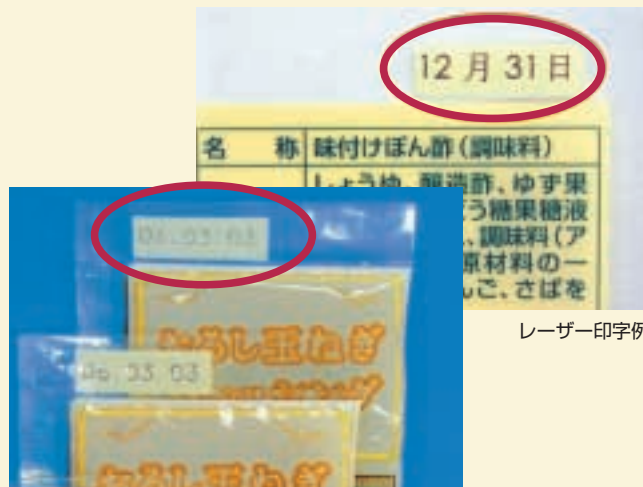
当中間期 平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで	株主資本									自己株式	株主資本 合計	評価・換算差額等 其他 有価証券 評価差額金	純資産 合計
	資本剰余金		利益剰余金						繰越利益 剰余金				
	資本金	資本 準備金	利益 準備金	買換資産 圧縮積立金	特別償却 準備金	保険差益 圧縮積立金	国庫補助 圧縮積立金	別途 積立金					
平成19年3月31日残高	2,408	2,896	165	21	28	34	1	3,660	703	△0	9,919	48	9,967
中間会計期間中の変動額													
買換資産圧縮積立金の取崩				△0					0		-		-
特別償却準備金の取崩					△4				4		-		-
特別償却準備金の積立					12				△12		-		-
保険差益圧縮積立金の積立						△4			4		-		-
国庫補助圧縮積立金の取崩							△0		0		-		-
剰余金の配当*									△207		△207		△207
中間純利益									440		440		440
株主資本以外の項目の中間会計期間中の変動額(純額)												△16	△16
中間会計期間中の変動額合計	-	-	-	△0	8	△4	△0	-	229	-	232	△16	216
平成19年9月30日残高	2,408	2,896	165	20	36	30	1	3,660	933	△0	10,152	32	10,184

※:平成19年6月の定時株主総会における利益処分項目です。注:記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

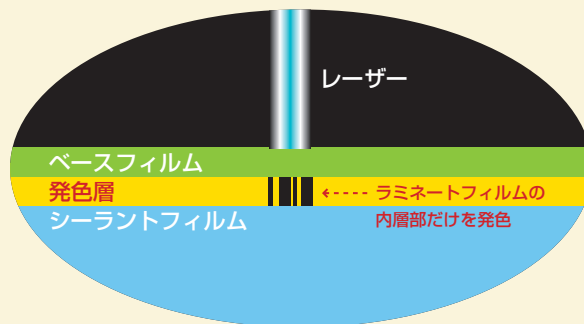
完全密封されたレーザー印字が生産性・安全性を向上

最先端のレーザー発色システムにより 食の安全性・信頼性の確保に貢献します。

大成ラミックでは、液体・粘体小袋充填システムの構築において、全ての製品の印字処理に、独自に開発したレーザー発色システムの活用を進めています。同システムは、レーザー光の照射によってラミネートフィルムの内層部だけを発色させるもので、従来のインクジェット方式等の印字処理での問題点（印字部に触れることで文字が消えたり、読みにくくなる等）を解消するばかりでなく、ラインスピード20m/分を超える高速充填域においても確実な印字を可能としています。また、フィルム表面にキズをつけることもなく、賞味期限などの印字部が密封処理されていることから、完全な改ざんの防止を実現することで、食品の安全性・信頼性の確保に大きく貢献しています。



レーザー印字例



レーザー印字イメージ図

■ 会社概要 (平成19年9月30日現在)

社 名 大成ラミック株式会社
Taisei Lamick Co.,Ltd.

所 在 地 埼玉県南埼玉郡白岡町下大崎873番1
〒349-0293

代 表 者 代表取締役社長 木村 義成

設 立 昭和41年3月22日

資 本 金 24億860万円

事 業 内 容 プラスチックフィルムを中心とした液体・粘体自動充填用フィルム「XAシリーズ」、高速液体自動充填機「DANGANシリーズ」および周辺機器の製造・開発・販売

従 業 員 数 322名 (男子278名 女子44名)ほか
臨時従業員81名

主 な 事 業 所 本社・工場 (埼玉県南埼玉郡白岡町)

営 業 所 札幌、東北、仙台、名古屋、大阪、福岡

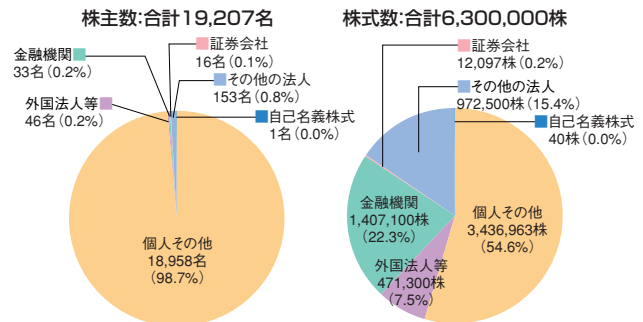
■ 役員一覧 (平成19年9月30日現在)

取締役会長	木 村 登
代表取締役社長 (管理本部長)	木 村 義 成
常務取締役 (開発技術・機械本部長)	村 山 淳 司
取締役 (営業本部長)	古 村 博
取締役 (生産本部長)	山 口 政 春
常勤監査役	里 村 睦 男
常勤監査役	裁 松 修
監査役	山 本 実
監査役	三 浦 芳 治

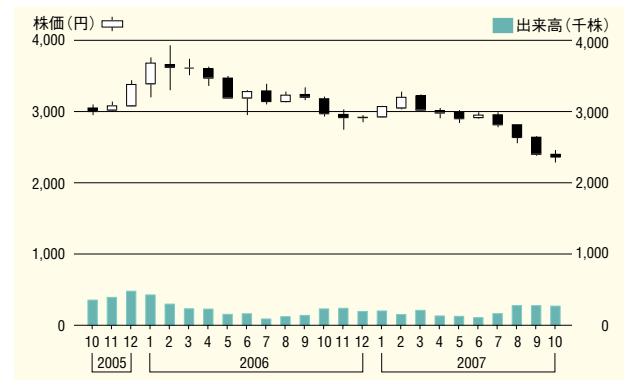
■ 株式状況 (平成19年9月30日現在)

- 発行可能株式総数 20,000,000株
- 発行済株式総数 6,300,000株
- 株 主 数 19,207名

■ 所有者別株式分布 (平成19年9月30日現在)



■ 株価／出来高の推移



事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番4号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	(住所変更等用紙のご請求) ☎ 0120-175-417 (その他のご照会) ☎ 0120-176-417
(インターネットホームページURL)	http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html
同 取 次 所	住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
公告の方法	当社のホームページに掲載する。 (http://www.lamick.co.jp)
上場証券取引所	東京証券取引所

株主優待のお知らせ

当社は、株主の皆さまへ日頃の感謝の気持ちを込めて、年2回株主優待品を贈呈しています。

なお、今回は12月上旬に発送いたしました。

毎年2回

(3月末および9月末現在の株主名簿に記載された株主様)

100株～999株保有の株主様

3,000円相当の
自社製品に
関連する商品



1,000株以上保有の株主様

5,000円相当の
自社製品に
関連する商品



商標の由来

日本民族最古の包装資材は、主として竹の皮が用いられていました。言い換えれば、我が国包装文化の原点であります。

竹の子は長じて竹になり、成竹は強靱性・柔軟性に最も優れ当社の主力商品である各種ラミネート製品に求められる強靱且つ柔軟性を併せもつ条件に適合するものであります。

社 名 **大成ラミック株式会社** (Taisei Lamick Co.,Ltd.)
所 在 地 埼玉県南埼玉郡白岡町下大崎873番1 〒349-0293
お問い合わせ 総務部 IR担当：TEL 0480-97-0224 FAX 0480-97-0204
ホームページ <http://www.lamick.co.jp/>

●本中間決算報告は、100%再生紙を使用しています。